

# 見学会参加記

戸 松 敬

## 1. はじめに

今回の見学会は、新潟応用地質研究会・地盤工学会北陸支部・日本技術士会北陸支部の共催で、平成17年10月21日～10月22日に開催されました。

見学地は、「中越大震災」の被災地（旧山古志村周辺）8箇所と「7・13水害」の被災地（三条市周辺）5箇所の計13箇所でした。

私は会社に入って2年目になります。会社では、先輩方と一緒に「中越大震災」の被災地で幾つかの業務に携わっていましたが、自分の担当する現場以外の被災地に行かせてもらえる機会が殆ど無く、今回の見学会参加は、自分にとってとても良い機会をもらったと思いました。

また、「7・13水害」に関しては、水害直後の出張で新潟を離れ、遙かかなたの「三宅島」にいたため、被災状況について殆ど分からなかったもので、この見学会を通して説明を聞けたら良いなと思っていました。

今回の見学会は一泊二日で、宿泊付の会は初めてだったこともあり、「寒かったら・・・、濡れたら・・・」などと考えはじめたら荷物が多くなってしまいました。しかし、当日、皆さんを見ると、割りと軽装だったので失敗したかなと思いました。

ここでは、見学会で廻った13箇所のうち、私にとって印象に残った幾つかの見学地についてご紹介します。

## 2. 見学会

### [中越大震災の被災地]

#### • 塩谷神沢川現場

塩谷神沢川地すべりは、中越地震本震の震央（川口町大字武道窪付近）から北東に約5kmに位置しています。見学会のバスは、川口インターチェンジから国道17号を渡り、主要地方道小千谷川口線を北上してこの地に着きました。

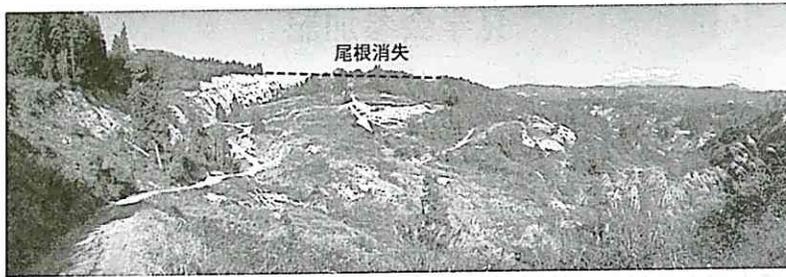
この地すべりのメインとなるブロックは、斜面長640m、幅450m、すべり面最大深度80mと非常に大規模なものでした。

地すべりの頭部には、明瞭な陥没がありました。また、地すべり土塊が回転運動により斜めになっており、目が回りそうな風景になっていました。

この地すべりは、滑動により尾根を消失させ、脚部で50mも隆起させたということには驚きでした。

---

\*（株）キタック



写真一 塩谷神沢川地すべりの状況

・妙見土砂崩落現場

初日の昼食後は、妙見土砂崩落現場に訪れました。見学地は、一般県道小千谷長岡線で大規模な土砂崩壊が発生し、走行中の車両4台が巻き込まれた現場です。

私は、旧山古志村の現場に行くときにこの脇をよく通っていたので、見慣れた風景ですが、今回のように対岸から見たのは初めてでした。対岸から見た崩壊地は、信濃川方向に向かった流れ盤でケスタ地形を呈しており、このすぐ近くで発生した横渡地すべりなども見られました。

この現場の復旧工法は、排土、橋梁、トンネルなどの案が提案、計画されており、新潟県庁のホームページで公開しているそうです。



写真二 妙見現場を信濃川の対岸から望む

・朝日川（浦柄）地すべり現場

妙見現場を見学した後、対岸に渡り浦柄の地すべり現場に向かいました。浦柄地すべりは、幅約40m、長さ約90の規模で、朝日川を河道閉塞した地すべりです。地震直後は、河道閉塞により周辺は水浸しになっていましたが、現在は仮廻し水路が通っており、水害の心配はなさそうです。



写真三 朝日川地すべりの説明を受ける

#### • 羽黒トンネル付近

羽黒トンネルは、全長約500m、主要地方道柏崎高浜堀之内線、旧山古志村役場から北東約1kmに位置しております。

このトンネルには、被災状況を確認するために地震直後の10月25日に会社の先輩と二人で訪れたことがあります。当時、道路の仮復旧も無かったため、長岡市の濁沢から片道3時間をかけ、徒歩で被災状況を確認しに行きました。



写真－4 被災直後の羽黒トンネルの状況

当初、トンネルの路盤や側部が大きく変形していました。また、アーチ部からは、大規模な剥落が発生していました。

#### • 福引屋

初日最後のイベントとして、長岡市の蓬平にある福引屋旅館の女将さんから、中越地震の体験談を聞かせていただきました。女将さんによると、不幸中の幸いとして、

○地震発生時刻が17：56で、料理に手を付ける前だったので、火事にならなかった。

○福引き屋は岩盤の上に建っていたので、被害が小さかった。

また、地震前後には、次の不思議な現象が起こっていたそうです。

- ・蛇がホテルによく入ってきた。
- ・農作業の邪魔をするカラスがいなくなった。
- ・地震直前に、温泉が詰り易くなっていたが、地震後はそれが解消し、更に泉質が良くなった。

## [7・13水害の被災地]

### ・刈谷田川破堤箇所（町谷橋）

町谷橋は、見附駅の東方約5kmの見附市本明町にあります。破堤は、裏のり肩からV字型に侵食が始まり、下流側に向けてうろこ状に欠壊が進行し、その後、横断方向に侵食が拡大し、護岸がむき出しとなった後、破堤に至ったものと考えられています。



写真－5 刈谷田川破堤箇所での説明をうける

### ・笠掘ダム

五十嵐川上流に位置する笠掘ダムは、昭和36年8月5日の集中豪雨による被害を契機として、昭和39年に竣工されました。7・13水害では、このダムの洪水調節機能がなかったら、破堤時刻が3時間早まったと推定されるそうです。



写真－6 笠掘ダムのカモシカ

## 3. おわりに

今回の見学会を通して、中越地震による巨大地すべりの状況や、被災地の復興状況を実感することができました。

この見学会は、私にとって得るものが多く、有意義なものになりました。一緒に参加した皆さま、そして幹事の方々に感謝いたします。